

Brexit とその派生表現の一考察

竹 中 裕 貴

0. はじめに

近年, とりわけ 2016 年 6 月 23 日のイギリスの EU 圏離脱の可否を決定する選挙と前後して, 次のような表現が紙面を賑わせた (以下, 例文中の下線部は筆者によるものである)。

- (1) a. Let there be no illusion about the trauma of Brexit. —*The Daily Telegraph*, June 6, 2016
(<http://www.telegraph.co.uk/business/2016/06/12/brexit-vote-is-about-the-supremacy-of-parliament-and-nothing-els/>)
- b. Brexit: What happens now? —*BBC*, June 29, 2016
(<http://www.bbc.com/news/uk-politics-eu-referendum-36420148>)

すでに多くの人を知るところとなっている表現で, 基本的には「イギリスの EU 圏からの離脱」を意味する下線部の *Brexit* は, [Br]itain と [exit] から成る混成語 (blend) であり, 英字メディアの記事に頻出するようになっている。上記 (1a, b) は, どちらも *Brexit* の影響について議論しているイギリスのメディアによるものであるが, 当時本格的な大統領選の開始を控えたアメリカにおいても, (2) のような記事が書かれていた。*Brexit* の一因となった難民問題などの対応について, 当時大統領候補だった Donald J. Trump の政策との関わりを論じている:

- (2) a. Britain's post-Brexit warning for Americans seduced by Trump—*The Washington Post*, September 1, 2016
(https://www.washingtonpost.com/opinions/global-opinions/britains-post-brexit-warning-for-americans-seduced-by-trump/2016/09/01/829f7770-704d-11e6-9705-23e51a2f424d_story.html?utm_term=.f10b04a55973)
- b. What Trump has in common with the Brexit vote —*Fox News*, September 30, 2016
(<http://www.foxnews.com/opinion/2016/09/30/what-trump-has-in-common-with-brexit-vote.html>)

2017 年となっても, この表現は一過性のもものではなかったようで, 未だ議論に用いられ, その勢いを保ったままのようであり, 以下のような使用例が簡単に確認できる:

- (3) a. Since the Brexit vote, the British feel more European than ever —*The Guardian*, March 15, 2017
(<https://www.theguardian.com/commentisfree/2017/mar/15/brexit-vote-british-european-dutch-elections-leavers-remainers-europe>)
- b. 'Brexit' Ruling Reveals Cracks in Britain's Centuries-Old Institutions —*New York Times*, January 24, 2017
(<https://www.nytimes.com/2017/01/24/world/europe/theresa-may-brexit-vote-article-50.html>)

また、アメリカ人漫画家 John Deering の風刺漫画には、Brexit を基にした、Britain だけでなく EU 内の他の国にも -exit を付加した表現もみられる¹⁾：

- (4) **John Deering** July 19, 2016



(<http://www.gocomics.com/johndeering/2016/07/19>)

このように広く使用されるようになった Brexit について、本稿では、この表現が生まれた言語文化的な背景を整理し、その言語的特性を明らかにする。そして、Brexit という語の語形成のプロセスと、それが生み出す様々な派生表現について、特に形態素 -exit に焦点を当て、それが具体的にはどのような新語を生み出し、そして、どれほど生産性がある形態素なのか、特にイギリスとアメリカのメディアを情報源として議論していく。

竹中 (2016a,b) で議論した -zilla や -ext のような新しい形態素の一つとして、最新の英語表現の分析を行っていききたい。

1. Brexit の言語的特性

上述の通り、Brexit は Britain と exit からなる混成語であるが、具体的には、その語源や定義を含め、どのような言語的特性をもっているのであろうか。以下で確認し、議論していきたい。

1.1. Brexit の定義と語源

手がかりとして、日本では『英語教育』のように、その用法と関連表現を取り上げるものもでてきた。まず、2016年11月刊行の『英語教育』の中の「語彙と表現のフォーラム 188」の記述を確認してみたい（類似表現として、Bregret [Britain + regret] などにも同時に言及してあるが、本稿では後ほど触れることとする。）²⁾：

- (5) 英国は国民投票で EU からの離脱を決めましたが、かつて、ギリシャのユーロ圏離脱危機の際に、Grexit (ギリシャ [Greece] の離脱 [exit]) という語が作られたので、それに倣って Brexit (英国 [Britain] の離脱 [exit]) という語が使われるようになりました。

Brexit に先行して、Grexit というギリシャの EU 離脱に関わる表現の存在が指摘されているが、どのような表現であろうか。Brexit を分析するためには、まずは Grexit についてさらに詳しくみておく必要がある。

すでに *OALD* (<http://www.oxfordlearnersdictionaries.com/>) にその定義が採録されているため、それを確認するとより詳しい情報を以下のように知ることができる。

(6) **Grexit** *noun*

[singular, uncountable]

used to refer to the possible departure of Greece from the Eurozone (= the group of countries within the European Union that use the euro as a unit of money)

- Voters fear uncertainty and do not want to risk Grexit.

Word Origin

2012: blend of Greek (or Greece) and exit.

—*OALD*, s.v. **Grexit**

(<http://www.oxfordlearnersdictionaries.com/definition/english/grexit?q=grexit>)

この定義から、Grexit は「可能性のあるギリシャのユーロ圏離脱」を意味し、単数形の不可算名詞であり、もともと固有名詞である Greece を用いた混成語のため、文中でも語頭の“G”は大文字で綴られていることから、固有名詞のように扱われていると考えられる。また、“Word Origin”にはより詳しく、この表現が 2012 年に生み出されたことが記述されているが、さらに付け加えれば、この語を生み出したのは、Citigroup の Ebrahim Rahbari と Willem H. Buiter であるという。³⁾

また、*OALD* 以外にも、*CED* (<https://www.collinsdictionary.com/dictionary/english/>) の記述が大変役立つ。こちらにも、起こりうるギリシャの EU からの離脱を定義としているが、*informal* とあり、ジャーナリズムなど特定の場面で用いられる表現であるようである：

(7) noun *informal*

the potential withdrawal of Greece from the group of countries using the common European currency —*CED*, s.v. *Grexit*

(<https://www.collinsdictionary.com/dictionary/english/grexit>)

では、*Brexit* についても確認してみる。再度 *OALD* をみても、こちらもすでに定義が採録されており、以下のようなようである：

(8) **Brexit** noun

[singular, uncountable]

used to refer to the possible departure of the United Kingdom from the European Union

- A growing worry was that of a Brexit, Britain leaving the EU.
- Suddenly, Brexit seems like a real possibility.

Word Origin

2012: blend of British (or Britain) and exit, probably on the pattern of *Grexit* (coined earlier in the same year).

(<http://www.oxfordlearnersdictionaries.com/definition/english/brexit?q=brexit>)

(8) の情報から、言語的な特性は (6) の *Grexit* と同じであり、「可能性のあるイギリスのユーロ圏離脱」を意味するとしている。そのほかの点についても、単数扱いの不可算名詞であり、語頭が大文字で綴られることも同様である。また、*CED* にも同じように定義があるが、*Brexit* についてはこちらの方がより記述が正確であると考えられる。

(9) noun

the withdrawal of the United Kingdom from the European Union —*CED*, s.v. **Brexit**

(<https://www.collinsdictionary.com/dictionary/english/brexit>)

(7) の *Grexit* の定義と比較して興味深いのは、まず *informal* のラベルが消えていることと、起こりえる事態ということで “the potential withdrawal” としていた *Grexit* とは異なり、すでに起こる (離脱する) ことが決定している *Brexit* の定義は、単に “the withdrawal” とあり、*potential* が消えていることは注目に値する。

また、Brexit の起源についても整理しておきたい。Brexit は決して真新しい表現ではなく、Grexit の後、同じとしの 2012 年に生み出されていることが (8) の記述から分かる。補足すれば、生みの親はイギリスのシンクタンク British Influence の創設者である Perter Wilding である。⁴⁾ この他、オンライン版の英和辞典である『英辞朗』には、次のような定義がある：

(10) 【名】

英 (国) EU 離脱、ブレグジット、ブレキシット、ブレキジット◆英国が欧州連合 (EU) から離脱すること◆日本ではブレグジットと表記されることが多いが、英語ではブレクスィットと発音されることが多い。◆【語源】British (英国の) + exit (離脱・出ていくこと・退去) ◆【同】British exit from the European Union◆【参考】Bregret ; Regrexit ; Grexit

(<http://eow.alc.co.jp/search?q=brexit&ref=sa>)

以上から、Brexit について基本的な情報を得ることができる。すでに *OALD Online* に採録されていることには触れたが、有料オンライン版の *OED* でもその定義や関連情報を読むことができ、それをまとめて取り上げた以下のタイトルの *BBC* の記事は非常に参考になる：

(11) Brexit added to Oxford English Dictionary

(<http://www.bbc.com/news/uk-england-oxfordshire-38326516>)

上記で引用した *OALD* や *CED* より詳しい以下の (12) の定義とともに、記事の中で *OED* の編者は、この語が異例の早さで辞書に載録されることとなったことや、Brexit の他に Brixit や UKexit のような表現のバリエーションが存在するが、Brexit が最も優勢で、*OED* に収録されることになったと指摘している。

(12) It defines Brexit as “the (proposed) withdrawal of the United Kingdom from the European Union, and the political process associated with it”.

It continues: “Sometimes used specifically with reference to the referendum held in the UK on 23rd June 2016, in which a majority of voters favoured withdrawal from the EU.”

The OED’s senior editor said it became widely used with “impressive” speed.

たしかに、イギリスで国民投票のあった 2016 年 6 月以前には、例えば Brexit ではなく Brixit と表記した記事は以下のように比較的簡単に見つかるのだが、最近のメディアでは、アメリカとイギリス双方でこのような表記は見られないようである。

- (13) a. A 'Brixit' Could Be Next Problem for Europe: Nomura — *CNBC*, August 8, 2012
(<http://www.cnn.com/id/48565818>)
- b. The term Brixit is dominating the European parliament vote in the UK. Jim Boulden explains. — *CNN*, May 23, 2014
(<http://edition.cnn.com/videos/world/2014/05/21/pkg-boulden-eu-elex-brixit.cnn>)
- c. BBC shows some balance with Newsnight debate on Brixit
— *The Commentator*, December 13, 2012
(<http://www.thecommentator.com/article/2256/bbc-shows-some-balance-with-newsnight-debate-on-brixit>)

また、これまで挙げた *OED* 以外の辞書は、「EU からの離脱」という行為にのみにその定義上の焦点を当てていたが、ここではその「離脱」に至る政治的な「道程」 (“the political process associated with it”) も含意することがあることを示しており、さらには、2012年に誕生したこの表現が現在では、離脱を決定づけることとなった2016年6月23日の国民投票と結びつけられていることが分かる。これらの点は *Brexit* を正確に定義する上で不可欠な情報であると言えるが、今回の調査ではオンライン版の *OED* のみにその記述があるようである。

この他、(12)の記述に続き、“Brexitteer” “Brexitter” “Brexit as a verb” の他、(5)の直前や(10)でも記述に言及した“Bregret” “Bremorse” “Brexodus” のような派生表現を生み出す生産性を見せていることが指摘されている。

1.2. *Brexit* の可算性について

以上のような背景の他にも、議論しておくべき点がある。上記 *OALD* で確認したが、*Brexit* は辞書の定義上、単数形の不可算名詞として扱われており、綴字法からも固有名詞であるように分析できたし、これまで取り上げてきた用例でもそのように観察された。また、明確に固有名詞と定義しているのは、*Wiktionary* (<https://en.wiktionary.org/wiki/Brexit>) であり、“Proper noun” のラベルがある。しかし、さらに用例を吟味していくと、その可算性についてはかなりの揺れが存在することが確認できる。

これまでの用例の他に、情報源としてコーパスを考慮すれば、2016年3月現在確認できるもので、COCAに11例、BNCでは0例と少ない。しかしながら、COCAの11例はすべて名詞のように機能しているものの、問題なのはその中に、不定冠詞と共起しているものがあることである (*Grexit* も同様に不定冠詞と共起するものが見られるが、本稿では *Brexit* を中心に分析を行う)。複数形となったり、さらに数詞と共起するものはないものの、まず、COCAで抽出できる用例を吟味してみたい：

- (14) a. The greatest damage to British interests through a shambolic “Brexit”, however, would be its impact on the rest of the continent.

- b. An amicable Brexit would heal the rifts in the Tory party, as most of its Europhiles do not wish to sacrifice British sovereignty by joining a single European state; indeed, their whole rhetoric over the past three decades has hinged on arguing that this prospect is a mere chimera.
- c. I'm voting Labour, as usual with reservations, but that's the best way to stop a referendum on the Brexit from the EU. Referendums are always biased because they are always based on leading questions (look at the Scottish independence referendum). A Brexit would be a disaster of enormous proportions, and it would spell the end of our extraordinary dominance of international league tables for universities, because we depend heavily on research income from the EU and on the free movement of academics within Europe.
- d. For Hans Kundnani, research director at the European Council on Foreign Relations in London, Europe could lose as much from a "Brexit," as it's called, as Britain.

この COCA から収集した用例を詳しく見ると、その情報源は多少偏りがる。(14a, b, c) は、*News Statesman* (<http://www.newstatesman.com/>) というイギリスのメディアからの引用であり、さらに (14a, b) は Brendan Simms という同一の人物の記事からの引用であることには注意が必要である。(14d) のみが、アメリカのメディアである *The Christian Science Monitor* という異なる媒体からの引用である。

この他、コーパスには現れないその他のメディアからも、このような用例は豊富に見つかる。例えば CNN の Angela Dewan の “Brexit: What does it mean for you?” というタイトルの記事では、本文では以下のように **Brexit** はすべて不定冠詞付きで用いられている。一つの記事の中で 19 箇所も “a Brexit” と不定冠詞とともに用いられているが、全文を引用すると非常に長くなるため、最初 5 例のみにとどめて (15) で引用しておく：

- (15)
- a. So what does a Brexit look like for you? It depends who you are.
 - b. The consensus among British property analysts appears to be that a Brexit will lead to either a slowdown in property price growth, or an outright fall in prices.
 - c. If a Brexit does rock the UK economy as widely predicted, the central bank may be forced to cut interest rates further.
 - d. Winkworth CEO Dominic Agace does not think a Brexit would necessarily be catastrophic for the real estate market.
 - e. The British pound took a huge battering on the announcement of the referendum results, dropping to a record low, and while a Brexit sorts itself out in the coming months, the currency is likely to remain weak.

(<http://edition.cnn.com/2016/06/22/europe/brexit-britain-eu-people/>)

その他の媒体からも少し用例を挙げておくと、(16a) の *The Sun* は、離脱が決定した当日の記事に不定冠詞をつけているし、(16b) は同時期の *Fox News* の記事であるが、同様に、やはり不定冠詞が見られる：

- (16) a. Leave passes the threshold of 16.8million votes needed to trigger a Brexit as a shell-shocked David Cameron announces he will resign as PM — *The Sun*, Jun 23, 2016
(<https://www.thesun.co.uk/news/1332742/britain-votes-to-back-brexit-and-leave-the-eu-on-historic-night-as-nigel-farage-declares-victory-for-ordinary-people/>)
- b. You've probably heard by now that a Brexit (Britain voting to “leave” the EU) could be very bad -- and possibly devastating to the world economy. — *ABC NEWS*, June 23, 2016
(<http://abcnews.go.com/Business/stake-us-brexit-vote/story?id=40059628>)

以上のように、Brexit という新語については、可算・不可算の用法に揺れが存在することは認める必要がある。

ではなぜこのような揺らぎが発生するのだろうか。まず、この語に含まれる exit という名詞による影響が考えられる。exit 自体は、“an exit” と自然に不定冠詞と共に起る。したがって、当然 exit を含む Brexit にも不定冠詞を付与しようという意識が使用者に働くと考えられる。またこれに加えて、この語が使用される社会的な文脈を考慮すれば、EU の離脱方法やその手続きに未確定な部分が多いことに注目すべきである。今後様々な条件下での Brexit が想定されるし、これまでも、Brexit を推進する政治家などによって多様な道筋が何度も示されてきた。このような意識を反映して、すなわち想定される数多くの Brexit の一つの例として、“a” Brexit となり、可算性を一部の文脈で獲得しているとも考えられるだろう。

使用者によって未だ安定しないこの点については、特に今後も注意しておく必要がある。

2. 言葉遊びとしての生産性

これまでの議論で、Brexit という表現の成り立ちと、その言語的特性を概観してきた。以下では、Brexit が一般的な表現として普及した結果生み出された諸表現について考察してみたい。

2.1. Brexit の派生表現

主要な派生表現については、すでに *OED* の記述を確認した際、そのいくつかに言及した。接尾辞、-er や -eer を付加し、Brexit の支持者を指す “Brexiter” や “Brexiteer”，Brexit 反対派または離脱を決定づけた投票の後に心変わりした人々が使用するようになった、-exit の代わりに後悔を表す regret や remorse を使用した “Bregret” や “Bremorse” が存在することに触れた。(10) でも記述があるが、さらにこの類似表現に regret と -exit を用いた “Regrexit” という表現もある。また、聖書の出エジプト記 Exodus を -exit の代わりに用いてイギリスからの脱出を表す *Brexodus* という表現もある。ただしこの場合、Brexit と同じような語形成で

あるにも関わらず、Br- と、それぞれ -exit と -exodus の意味関係は異なっているため注意されたい。このことは、(17) のようにまとめられる：

- (17) Brexit = Britain's exit from EU
Brexodus = Exodus from Britain

すなわち、Brexit では、構成要素である Britain と exit の間に、動作主と動詞としての関係性が成立するが、Brexodus においては、Britain は脱出すべき場所、すなわち起点となっている。

念のため Brexodus については用例を見ておきたい。すべて、Brexit の悪影響を恐れ、イギリスから脱出しようとする人々について扱ったものである：

- (18) a. Brexodus: 'Brain drain' fears as NHS workers seek to emigrate after Leave vote
—*Sunday Post*, July 3, 2016
(<https://www.sundaypost.com/news/political-news/brexodus-disillusioned-nhs-staff-wanting-leave-brexit-vote-spark-fears-brain-drain/>)
b. Brexodus threatens to derail British economy —*The London Economic*, February 24, 2017
(<http://www.thelondoneconomic.com/news/brexodus-threatens-derail-british-economy/24/02/>)

このような意味解釈の違いは、統語論的・形態論的な分析のみからでは確定できず、これらが使用される社会的な状況を含む大きな文脈に依存しているようであり、それを読み込むことで初めて解釈できる。

また、-exit はもともと動詞としての用法もあるため、“Brexit as a verb” の用法が存在していることも不思議ではない。動詞としての定義は、以下 (19) の *Wikitionary* がその例文を含め参考になる：

(19) **Verb**

Brexit (third-person singular simple present **Brexit**s, present participle **Brexit**ing, simple past and past participle **Brexit**ed)

(of *Britain*) To exit the European Union.

- 2015, Stefano Francesco Fugazzi, *Brexit?*, ISBN 1326311743, page 27:

Brexiting the EU, not leaving Europe

- 2016, Maureen Dowd, *The Year of Voting Dangerously: The Derangement of American Politics*, ISBN 1455539244:

Parisiens I had talked to were universally disgusted: with David Cameron, for holding the vote; with the British, for **Brexit**ing;

- 2016, Owen Bennet, The Brexit Club: The Inside Story of the Leave Campaign's Shock Victory, ISBN 1785901133:

Farage recalls: What was clear from that polling was that in June 2015 the most trusted person in the country on whether to **Brexit** or not to **Brexit** was David Cameron.

(<https://en.wiktionary.org/wiki/Brexit>)

Brexit という新語は、以上見てきたように、**-exit** が **Britain** 以外と結合するような生産性を示すだけでなく、正確に言えば、[(固有) 名詞] + [名詞または動詞] という形で、ある事態や出来事を象徴する複合語および混成語の語形成プロセスそのものに生産性を与えているようである。この結果として、これまでに触れてきたような **Brexit** からの類推による様々な変種が存在することとなったのだろう。

2.2. 言葉遊びとしての生産性

では最後に、未だ取り上げられていない **Trexit (Trumpexit)** という表現についてについて見ておくこととする。辞書に採録されるような表現ではないが、**-exit** という形態素が使用された、現在のアメリカの状況を風刺する新語である。

2.2.1. Trexit

Trexit は、第アメリカ 45 代アメリカ合衆国大統領 **Donald J. [Tr]ump** と、**Brexit** を構成していた **-exit** からなる混交語であり、後述するとおり、**Trumpexit** という複合語も同時に確認できる。では実際に、どのような文脈で、どのような意味を持っているのか確認したい。

イギリスの **EU** 離脱が国民投票で決定されると、アメリカではそれを報じる記事があったことは本稿の前半で触れているが、**Brexit** にかからめて、以下のような記事が書かれている：

(20)

Brexit, meet America's Trexit



Painted image of former London Mayor Boris Johnson (R) and U.S. Presidential candidate Donald Trump (L) last month. (Neil Munns/EUROPEAN PRESSPHOTO AGENCY)

この中には、以下のような記述がある：

- (21) Trump further explained that it was great the British people were taking their country back, just as Trump supporters are hoping to do in November. Indeed, in many respects, Trump is the U.S.'s “Trexit” — a ticket to leave the establishment and entrenched bureaucrats whom Trump’s admirers, and Britain’s leavers, see as responsible for their respective nation’s problems. —*The Washington Post*, June 24, 2016
(https://www.washingtonpost.com/opinions/brexit-meet-trexit/2016/06/24/d8ef7692-3a43-11e6-a254-2b336e293a3c_story.html?utm_term=.70af23e8a57c)

Trump がアメリカ大統領になった場合を想定して [Tr]ump が語頭にきており、その後、脱出を意味する -exit が続くわけであるが、この場合の語形成とその解釈については、(21) の下線部に具体的に記述されており、それはアメリカの既存の支配階級や頭の固い官僚たち (“the establishment and entrenched bureaucrats”) からの脱出を意味し、Brexit の場合とは異なり、語頭に用いられた Trump が、ここでは脱出という語の行為者ではなく、脱出を主導または誘発する象徴としてこの新語に組み込まれていることに注意されたい。

そして、結果的にアメリカ大統領選が Trump の勝利に終わると、それに関連した記事の中でも Trexit が用いられている。

- (22) Brexit 2.0: How “Trexit” Will Change Campaign Strategies Globally
—*FOX Business*, November 10, 2016
(<http://www.foxbusiness.com/politics/2016/11/10/brexit-2-0-how-trexit-will-change-campaign-strategies-globally.html>)

多くの専門家やテレビのコメンテーターが予測していなかった事態が、Brexit と類似しており、その結果として Trexit が、Brexit に続く新しい Brexit のような現象 (Brexit 2.0) を表す表現として用いられているようである。

しかしながら、次の例はどうであろうか。Brexit 現象のアメリカ版としての Trexit だけが、その表せる意味ではないようである。以下は、“America, Let’s Discuss “Trexit”: Donald Trump Exiting The U.S.” と題した記事の一部である：

(23)

America, it's time to talk about another exit, one right at *our* doorstep.
I'm speaking, of course, about Donald Trump exiting the U.S.
permanently. Yes. I'm talking about ...

“TREXIT.”

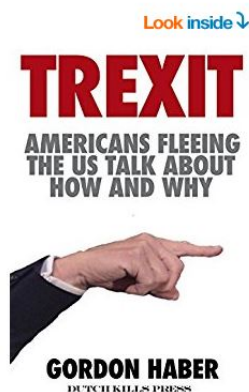
—*The Huffington Post*, June 24, 2016

(http://www.huffingtonpost.com/entry/america-lets-please-discuss-trexit-donald-trump-exiting-the-us_us_576d7be0e4b0f16832397829)

この記事が書かれたのは、トランプが大統領選で勝利するより前であり、Trexit が表すのは記事のタイトルが表すように、上記 (21) や (22) のような意味合いではなく、トランプがアメリカから出て行ってほしいという文脈で、それ (“Donald Trump exiting the U.S.”) を象徴する語として Trexit が生み出され使用されている。

また、Brexodus と同じ解釈が成立する Trexit の用法もある。すなわち、「トランプ大統領 (政権下のアメリカ) からの脱出」を意味するもので、以下の本のタイトルとなっており、*Amazon.com* で確認できる本の概要は、その解釈を裏付けるものである。

(24)



Donald Trump won the election. And now Americans are leaving. Who are they? How will they do it? And what specifically convinced them to leave? TREXIT is a collection of interviews with people taking steps to live abroad for the Trump years. It's a fascinating snapshot of what many Americans are thinking and feeling. And if you're considering Trexit, you may even get some useful ideas.

(<https://www.amazon.com/TREXIT-Americans-Fleeing-Talk-About-ebook/dp/B01MUCLEST>)

2.2.2. Trumpexit

さらに、個人レベルまで表現の調査範囲を広げれば、語形成のバリエーションも存在する。以下は、トランプ政権下の不動産に関わる政策を悲観し、アメリカから自分の持つ不動産資金を引き上げたとするブログ記事のタイトルである。ここでは、(24) と同じ「トランプ大統領 (政権下のアメリカ) からの脱出」という意味合いが強いと考えられる⁵⁾：

(25) Trumpexit: Another strategic portfolio shift

(<http://cigarlounge.kinja.com/trumpexit-another-strategic-portfolio-shift-1789687119>)

最後にもう一つ、異なる解釈について取り上げて起きたい。以下の発言は、*NJ.com* において“Did Trump just hint he might not serve as president if elected?” と題された記事への読者からのコメントの一つであるが、それは以下のようなものであった：

(26) I wouldn't be surprised to see a Trumpexit. Just like Boris and Nigel have jumped ship after blowing up the UK's ties to Europe. Don't be surprised to see Donald jump ship after blowing up the GOP.

—*NJ.com*, July 7, 2016

(http://www.nj.com/politics/index.ssf/2016/07/did_trump_just_suggest_he_might_not_serve_as_presi.html)

この表現も **Brexit** を念頭に置いたものであるが、イギリスの離脱を推進していた政治家 **Boris Johnson** と **Nigel Farage** が、EU とイギリスの関係を悪化させるだけさせて、最終的にはその舵取り役を投げ出してしまったように、当時大統領候補の一人であった **Trump** も、同じように共和党をかき乱した後、逃げ出す、すなわち **Trump** が（共和党やその責任から）逃げ出し（**exit**）ても、驚くことではないといっているのである。同じ **Trumpexit** ではあるが、この文脈で逃げ出すのは **Trump** 自身となっているのである。

3. まとめ

以上、本稿では、**Brexit** という表現の語源とその言語的特性、そして主に **-exit** という形態素を用いた派生表現について考察した。

まず、*OED* に異例の早さで収録されることとなった **Brexit** について、その基となるギリシヤの EU 離脱を示す **Grexit** と定義を比較しながら、**Brexit** との類似点と相違点を明らかにした。そして、**Brexit** については、**Grexit** と同じくその言語特性として単数形・不可算名詞であり、その語頭は大文字で綴る固有名詞としての特性が辞書的定義として存在していることを明らかにした。しかし同時に、英米のメディアやコーパスの用例を元に、不定冠詞を伴う用法の存在を提示することで、可算・不可算の用法については、**Brexit** という語の使用者により一定せず、そこにはこの語を形成する **exit** という形態素や、社会的な背景が影響している可能性を示した。

そして、その後、**Brexit** から派生した **Trexit** や **Trumpexit** を含むいくつかの表現を分析し、その理解には、その表現が用いられる言語的・社会的なコンテクストを読み込む必要があることを改めて示した。すなわち、**Brexit** の類推から生まれた諸表現は、語形成のプロセスや、構成要素である形態素がそれぞれ表す意味をただ受け継ぐだけでなく、社会的な背景に支えられた独自の意味解釈を可能にしているのである。

現代英語の新語を追うことは、その語が使用される言語と文化の最新の潮流を知ることでもあり、非常に価値があると思われる。今後も、新たな表現を追うことで、英語の言語文化的な情報収集と分析を継続したい。

【注】

- 1) ヨーロッパの国々の EU 離脱を表す表現が見られるが、アメリカの州が独立するというトピックにおいても *-exit* という形態素が使用されるようになっており、カリフォルニアの独立を指す *Calexit* (<http://www.yescalifornia.org/>) やテキサスの場合の *Texit* (<http://europe.newsweek.com/texas-nationalist-movement-texit-brexite-texas-secession-474367>) があり、*-exit* の生産性を伺うことができるため非常に興味深い。
- 2) *Quartz* (<https://qz.com/713953/possible-names-for-eu-exits-for-all-members-of-the-eu/>) を引用する形で、「離脱」を意味する *-exit* 以外の語を用いた理論上可能な組み合わせからなる数多くの混成語についても言及されているが、本稿では現在実際に用いられている *-exit* のみ焦点を当てるため詳しくは扱わない。
- 3) *Handelsblatt GLOBAL* の次のタイトルの記事が参考になる：
Brexit, History of a Fateful Word
(<https://global.handelsblatt.com/politics/brexit-history-of-a-fateful-word-545140>)
- 4) The Sydney Morning Herald の次の記事が参考になる：
'Mr Brexit' Peter Wilding sees UK on 'stupid' path toward EU exit
(<http://www.smh.com.au/world/mr-brexit-peter-wilding-sees-uk-on-stupid-path-toward-eu-exit-20161128-gszice.html>)
- 5) *Trumpexit* ではないが、以下一例のみブログの記事において見つかった *Obamaxit* ([Obam]a + [exit]) について見ておきたい。

EU 離脱に反対していた当時のイギリスの首相 David Cameron は、EU 離脱を問う選挙で、離脱派が勝利したことを受け辞任したが、大統領選挙が迫る中、今度はアメリカで脱 Obama だと息巻く人物のものである：

Since the UK finally took out David Cameron, it's possible to take out Obama over here. How about an Obamaxit next, hey?

(<https://kbrocking.com/2016/06/24/congrats-uk-we-in-the-usa-love-you-that-means-theres-hope-for-the-usa-too/>)

こちらにも、[Oba]ma は脱出の起点として組み込まれており、「脱オバマ」を意味する。

参 考 文 献

[辞書・論文・研究書]

CED = Collins English Dictionary (<https://www.collinsdictionary.com/dictionary/english/>)

OALD Online = Oxford Advanced Learner's Dictionary (<http://www.oxfordlearnersdictionaries.com/>)

Wikitionary = <https://en.wiktionary.org/wiki/Brexit>

『英辞郎』 = 『英辞朗 on the WEB』 アルク. [<http://eow.alc.co.jp/>]

竹中裕貴 (2016a), 「-zilla -新しい形態素を追う-」『英語の言語と文化研究』第 27 号, pp.13-28

---- (2016b), 「形態素 -ext を通じた語形成力の分析」『英語の言語と文化研究』第 28 号, pp.21-31

堀内克明 (2016), 「語彙と表現のフォーラム 188」『英語教育』Vol.65, No. 9, pp. 68-69.

[コーパス]

BNC = The British National Corpus [<http://corpus.byu.edu/bnc/>]

COCA = Corpus of Contemporary American English [www.american-corpus.org]

[インターネット資料]

ABC NEWS <http://abcnews.go.com/Business/stake-us-brexit-vote/story?id=40059628>

BBC <http://www.bbc.com/news/uk-england-oxfordshire-38326516>
<http://www.bbc.com/news/uk-politics-eu-referendum-36420148>

CNBC <http://www.cnn.com/id/48565818>

CNN <http://edition.cnn.com/videos/world/2014/05/21/pkg-boulden-eu-elex-brixit.cnn>
<http://edition.cnn.com/2016/06/22/europe/brexit-britain-eu-people/>

Fox News <http://www.foxnews.com/opinion/2016/09/30/what-trump-has-in-common-with-brexit-vote.html>

Fox Business <http://www.foxbusiness.com/politics/2016/11/10/brexit-2-0-how-trexit-will-change-campaign-strategies-globally.html>

GoComics <http://www.gocomics.com/johndeering/2016/07/19>

Handelsblatt GLOBAL <https://global.handelsblatt.com/politics/brexit-hishist-of-a-fateful-word-545140>

<i>NJ.com</i>	http://www.nj.com/politics/index.ssf/2016/07/did_trump_just_suggest_he_might_not_serve_as_presi.html
<i>Sunday Post</i>	https://www.sundaypost.com/news/political-news/brexodus-disillusioned-nhs-staff-wanting-leave-brexite-vote-spark-fears-brain-drain/
<i>The Commentator</i>	http://www.thecommentator.com/article/2256/bbc_shows_some_balance_with_newsnight_debate_on_brixit
<i>The Daily Telegraph</i>	http://www.telegraph.co.uk/business/2016/06/12/brexit-vote-is-about-the-supremacy-of-parliament-and-nothing-els/
<i>The Guardian</i>	https://www.theguardian.com/commentisfree/2017/mar/15/brexit-vote-british-european-dutch-elections-leavers-remainers-europe
<i>The Huffington Post</i>	http://www.huffingtonpost.com/entry/america-lets-please-discuss-trexit-donald-trump-exiting-the-us_us_576d7be0e4b0f16832397829
<i>The London Economic</i>	http://www.thelondoneconomic.com/news/brexodus-threatens-derail-british-economy/24/02/
<i>The New York Times</i>	https://www.nytimes.com/2017/01/24/world/europe/theresa-may-brexit-vote-article-50.html
<i>The Sun</i>	https://www.thesun.co.uk/news/1332742/britain-votes-to-back-brexit-and-leave-the-eu-on-historic-night-as-nigel-farage-declares-victory-for-ordinary-people/
<i>The Washington Post</i>	https://www.washingtonpost.com/opinions/brexit-meet-trexit/2016/06/24/d8ef7692-3a43-11e6-a254-2b336e293a3c_story.html?utm_term=.70af23e8a57c https://www.washingtonpost.com/opinions/global-opinions/britains-post-brexit-warning-for-americans-seduced-by-trump/2016/09/01/829f7770-704d-11e6-9705-23e51a2f424d_story.html?utm_term=.f10b04a55973

(たけなか ゆうき・島根大学外国語教育センター准教授)